

GREEN LETTER

グリーンレター

Vol.308

2022/12/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

GREEN COLUMN

01. ポータブル魚道

02. 湖畔の風景



今月の一枚



「ハナカジカ」

表紙写真・文／町田善康

気温が下がってくると、鍋がおいしい季節です。鶏肉や豚肉など具材は種々あれど、やっぱりカジカが一番です。普通は、トゲカジカなどの海産種を使います。作り方は簡単で、ぶつ切りにした身を鍋に入れ、肝臓を細かく碎いて味噌に溶きます。カジカ鍋はあまりに美味しいので、箸で鍋底をつついて壊してしまうので、別名「鍋壊し」とも言われます。もちろん、川にいるハナカジカを使っても、美味しい鍋になります。ぜひ一度ご賞味ください。

Event. 今月のイベント

企画展「おひろめコレクション展」 12月3日(土)～1月15日(日)

ロビー上映会「昭和の美幌、昭和の北海道」 1月31日(火)まで

博物館講座(芸術編)「無幻博物館へようこそ」 12月17日(土)

プチ工房「お正月の団子飾り」 12月23日(金), 12月24日(土)

Information. 参加者募集

博物館講座(歴史編)「夢幻博物館へようこそ」

●12/17(土) 10:00-12:00 ●博物館1階 講座室 ●参加費 300円, マスク ●松田真莉子(美幌博物館)
●美幌博物館へ電話申込み(-12/16)。対象は中学生以上～一般(小学生以下は保護者同伴)。定員12名で締切。

プチ工房「お正月の団子飾り」

●12/23(金), 24(土) ①10:00開始, ②11:00開始, ③14:00開始, ④15:00開始, 所要時間45分
※作品ができ次第終了 ●美幌博物館1階 講座室 ●参加費 300円, マスク ●城坂結実(美幌博物館)
●美幌博物館へ電話申込み(-12/22)。各回定員12名で締切。小学3年生以下は保護者の同伴が必要。定員に達しない場合は当日参加も可能です。

プチ工房「足が動くウサギをつくろう!」

●1/13(金), 14(土) ①10:00開始, ②13:00開始, ③14:30開始, 所要時間60分 ※作品ができ次第終了
●美幌博物館1階 講座室 ●参加費 300円, マスク ●松田真莉子(美幌博物館) ●美幌博物館へ
電話申込み(-1/12)。各回定員12名で締切。小学3年生以下は保護者の同伴が必要。定員に達しない場合は当日参加も可能です。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、発熱がある、あるいは体調が優れない方のご参加はお控えください。各イベントは、内容の変更や中止となる場合がございます。また状況により、一時休館となることもございます。事前にお電話でお問い合わせの上、ご参加ください。

12月の休館日

● ●
5日, 12日
19日, 26日
30日, 31日

1月の休館日

● ●
6日まで
10日, 16日
23日, 30日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

ポータブル 魚道

写真・文／町田善康



秋、海での暮らしを終えたサケ達が生まれ故郷の川に帰ってきました。しかし、私たちの暮らしを守るため、コンクリートで固められ、ダムが造られた川は、サケの行く手を阻みます。

そこで、10月22日、美幌町内にある網走川水系の支流で、サケの遡上を助けるために、持ち運びができる魚道（ポータブル魚道）を設置しました。魚道の設置には、小学生が4名、大人は12名が参加し、遠くは東京都からいらした方もいました。参加者からは、「簡単な材料で川の流れが改善できることに驚いた」や「とても環境に良い取り組みだ」という感想が寄せられ、活動を通して、環境保護の意識を醸成できたと思っています。

今回、ポータブル魚道を設置した場所も、前述した川と同様に、川底と川岸がコンクリートで固められてお

り、水深が浅く、水の流れが早くなっています。そのため、サケは、上流に遡上することはできなくなっていました。もちろん、ポータブル魚道を設置すると、水深が確保され、水の流れが緩やかになり、サケはスムーズに段差を越えていきました。非常に簡単な仕組みでサケを遡上させることができるので、今後、同様の取り組みが、多くの地域で広がっていくと嬉しいです。困っているサケが、少しでも川を遡上できるようになっていくことを願います。

湖畔の 風景

写真・文／鬼丸和幸



仕事柄、時間を見つけては、展示会や教育講座用に、生きものや自然風景の写真を撮影しています。写真や動画などは、視覚に訴えるインパクトが強く、撮影者が、苦勞の末、思いを込めて撮影した写真というのは、見られた方も、きっと思いを共有できるものだと思っています。

屈斜路湖は、湖畔に湿原が点在しており、夏になると、ヘイケボタルの姿も所々見られたりします。ホテルがずんでいる自然風景を、写真に残そうと思い、度々通っているうちに、素敵な場所を見つけました。小沢が湖に流入している場所で、ヤチダモの大きな木が湖面にせり出し、情感豊かな雰囲気、かもし出しています。この場所は、林道からヤブをかき分け、湖面に降りた場所なのですが、「この時期、ヒメマスを食べに、朝晩ヒグマがよく現れるので注意!」と言われた場所でもあり

ます。日没後、辺り一面がブルーに染まる頃に、どうしても撮影したく、クマスプレーを携帯し、ラジオのボリュームを上げ、鈴をジャンジャン鳴らしながら、湖岸に三脚を立てて、日没を待ちました。この日は雲もなく、日が落ちると、湖面は見事なブルー色に染まり、神秘的な景色を見せてくれました。しかし、さすがに怖いので、30分程で急いで引き上げました。

翌日の日中、再度この場所に行き撮影していると、釣り人が現れ、「あそこに、クマの足跡があるべさ」と指を指した湖岸の岸边には、砂地に点々とつけられたヒグマの足跡が…。夜中でも、現れたのかもしれませんが。

観光地とは言え、現在も野生の雰囲気が色濃く残る屈斜路湖の自然。その魅力は尽きません。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・八重柏誠

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



.....
「脚立の昇り降りですの痛み取れない」「左肩・腕
しびれが取れない」「アリナミン飲んでも効か
なくなった」「えるびす丼完食きつい」「時々施錠し
たかどうか思い出せない」「針穴に糸通せない」「奥
歯 2 本失った」…まだ先だと思っていた老化が、
進みつつあります（泣）。（鬼丸）